

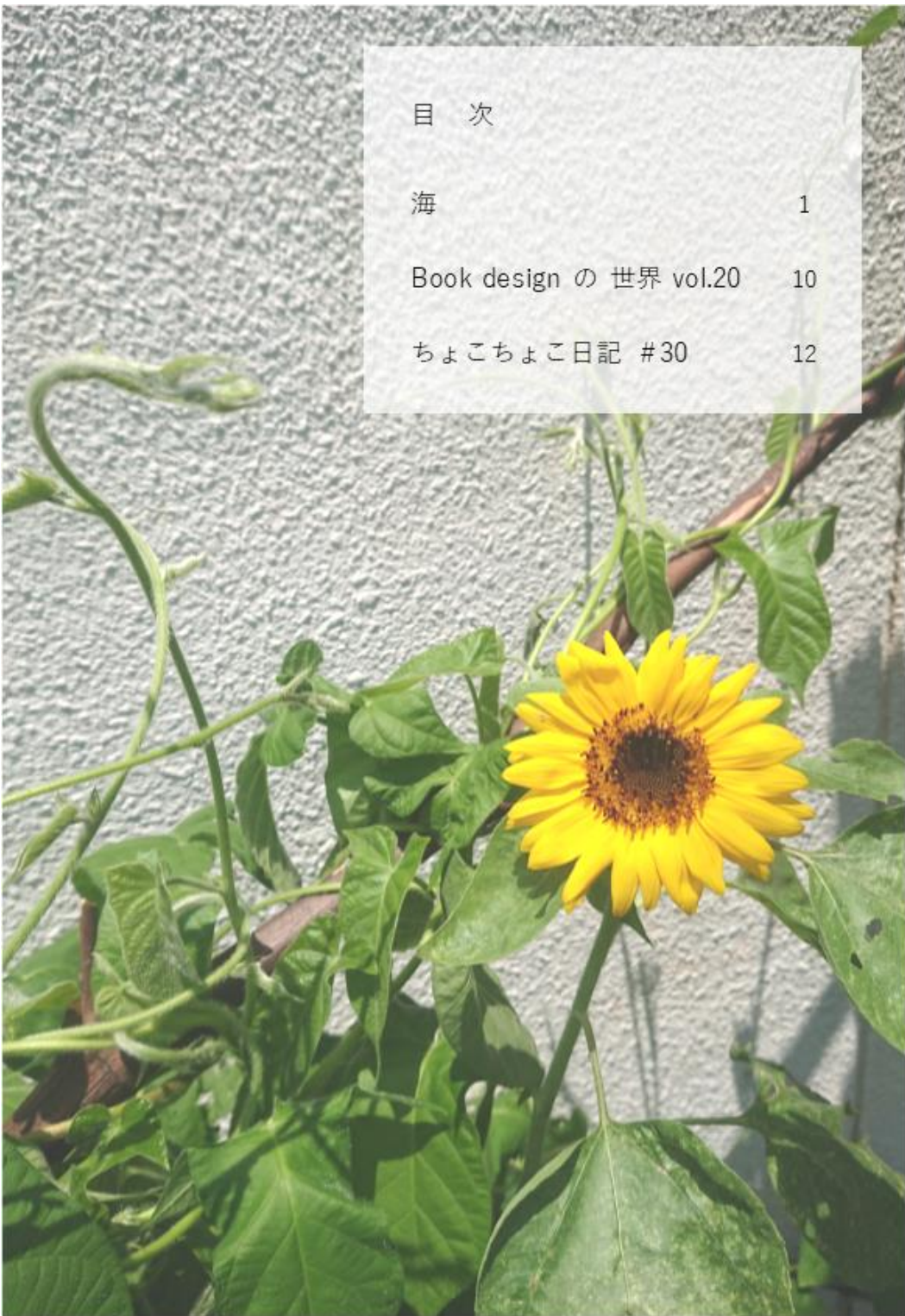
August - September 2021

こ ん な **本**



読 ん で み て

take free No. **90**



目次

| | |
|------------------------|----|
| 海 | 1 |
| Book design の世界 vol.20 | 10 |
| ちょこちょこ日記 #30 | 12 |

海

本の海を泳いでみませんか？



『海』

ぶん・え / 加古里子

出版社 / 福音館書店

出版年 / 1969年

請求記号 / 726.5 || Ka 27

細かく書きこまれた絵を夢中になって眺めているうちに、浅い海から深い海、近い海から遠い海、つながって広がっていきます。海を探検できる図鑑のような絵本です。

『これは すいへいせん』



ぶん / 谷川俊太郎

え / tupera tupera

出版社 / 金の星社

出版年 / 2016年

請求記号 / 913.6 || O 67

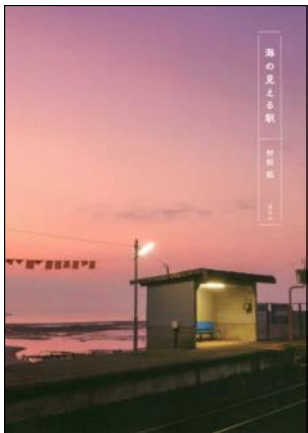
「これはすいへいせん」から始まって、言葉がどんどんつながっていきます。声に出して読むと、言葉のリズムをもっと楽しめます。インデックス付きの楽しい絵本。



『世界でいちばん素敵な 海の教室』

監修者／藤岡換太郎
出版社／三オブックス
出版年／2019年
請求記号／452||F 65

あまりにも美しい海の写真に心をつかまれます。「海はどうして青いの?」「海の水はどうして塩辛いの?」そんな海の不思議を、写真とわかりやすい説明で教えてくれる一冊です。



『海に見える駅』

著 者／村松拓
出版社／雷鳥社
出版年／2017年
請求記号／686.53||Mu 48

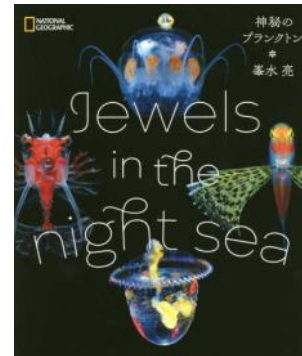
300近くの海に見える駅を巡ってきた著者が、特に印象に残った70の駅を紹介。美しい、素朴、未来的、さまざまな印象の絶景を味わえます。いつか訪れてみたい駅ばかりです。



『世界一やさしい 海釣り入門』

著 者／西野弘章
出版社／山と溪谷社
出版年／2017年
請求記号／787.13||N 85

「初心者でも自然の中で充実の時間を過ごしながら確実に進歩できる釣りが『楽しくてやさしい』のだと思う」と考える著者が、分かりやすく丁寧に釣りを解説した一冊です。



『Jewels in the night sea 神秘のプランクトン』

写真・著／峯水亮
出版社／日経ナショナル
ジオグラフィック社
出版年／2018年
請求記号／468.6||Mi 42

夜の海で撮影されたプランクトンの写真集。まだまだ明らかでないことが多いプランクトンの色、形、生態など、不思議な美しさに目を奪われる一冊です。



『海をあげる』

著者 / 上間陽子

出版社 / 筑摩書房

出版年 / 2020年

請求記号 / 914.6 || U 41

沖縄で「人の言葉を聞く」著者によるエッセイ集。生きることの痛みや苦しみ、変わっていく沖縄の景色、娘と過ごす日々。大切にしたい人や物事について考えさせられる一冊。



『海に沿って歩く』

著者 / 森まゆみ

出版社 / 朝日新聞出版

出版年 / 2010年

請求記号 / 291.09 || Mo 45

「海が好きだ」という著者のエッセイ集。島や半島を巡り、街並みや人々の声から暮らしが垣間見えます。三重県の伊勢志摩や鳥羽・神島についても興味深いエッセイが書かれています。



『アンマーとぼくら』

著者 / 有川浩

出版社 / 講談社

出版年 / 2016年

請求記号 / 913.6 || A 71

里帰りしたりヨウは、よみがえる思い出と共に沖縄を巡ります。家族の愛情に包まれた、不思議な三日間の物語。沖縄の風を感じてみませんか。



『コロナと潜水服』

著者 / 奥田英朗

出版社 / 光文社

出版年 / 2020年

請求記号 / 913.6 || O 54

不思議な出来事に心が温まる、5つのファンタジー短編小説。テレワーク勤務中の康彦の五歳の息子・海彦は新型コロナウイルスを感知できるようで……（「コロナと潜水服」）



『漁師の愛人』

著 者／森絵都
出版社／文藝春秋
出版年／2013年
請求記号／913.6||Mo 45

5つの物語が味わえる短編集。あるきっかけで漁師となった長尾と共に漁師町へ移り住んだ沙江は、地域の人々との関わりの難しさに直面する。（「漁師の愛人」）



『漁港の肉子ちゃん』

著 者／西加奈子
出版社／幻冬舎
出版年／2014年
請求記号／913.6||N 81

漁港の焼肉屋で働く肉子ちゃんと娘のキクリんの物語。肉子ちゃんの明るさやパワーがつまっていて、元気づけられる作品です。2021年6月公開アニメ映画原作。



『海のふた』

著 者／よしもとばなな
出版社／中央公論新社
出版年／2006年
請求記号／913.6||Y 91

まりは、ふるさと西伊豆の小さな町でかき氷屋を始めます。はじめちゃんと出会った夏の物語。版画家・名嘉睦稔の美しい挿絵と共に、海のある風景を味わうことができます。



『八月の銀の雪』

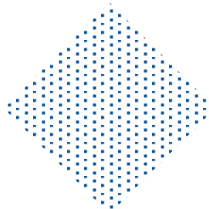
著 者／伊与原新
出版社／文藝春秋
出版年／2020年
請求記号／913.6||I 97

科学と日常のつながりを感じられる短編集。ふとしたきっかけで自然史博物館の〈海の哺乳類展〉を訪れた母娘は、スケッチのモデルを引き受けることになり……（「海へ還る日」）



『どくとるマンボウ 航海記』

著者／北杜夫
出版社／新潮社
出版年／1987年（改版）
請求記号／913.6||Ki 67



漁業調査船へ船医として、5か月間 世界を旅した著者による航海記。船内や寄港したアジア、アフリカ、ヨーロッパ各地の様子がコミカルな語り口で書かれていて、旅気分を味わえます。



『潮騒』

著者／三島由紀夫著
出版社／新潮社
出版年／1985年（改版）
請求記号／913.6||Mi 53

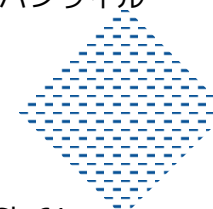


何度も映像化されている名作。三重県・神島をモデルにしたとされる歌島が舞台となっています。豊かな自然の中、新治と初江の愛を美しくえがいた物語。



『海に帰る日』

著者／ジョン・バンヴィル
訳者／村松潔
出版社／新潮社
出版年／2007年
請求記号／908||Sh 61

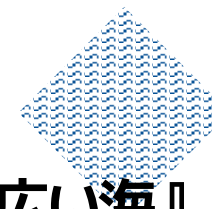


妻を失ったマックス・モーデンは、遠い夏の記憶に導かれ小さな海辺の町へ向かいます。過去と現在の思いが波のように寄せては返す物語。



『灯台へ / サルガッソーの広い海』

著者／ヴァージニア・ウルフ
／ジーン・リース
訳者／鴻巣友季子／小沢瑞穂
出版社／河出書房新社
出版年／2009年
請求記号／908||Se 22||2-1



灯台が見える別荘を舞台に、繊細な感情を流れるようにえがいた「灯台へ」。奴隷廃止後のイギリスの植民地を舞台に、差別や偏見を巡る葛藤をえがいた「サルガッソーの広い海」。2作品読むことで幸福と不幸というものを見つめ直す一冊。

Book design

の世界

vol.20

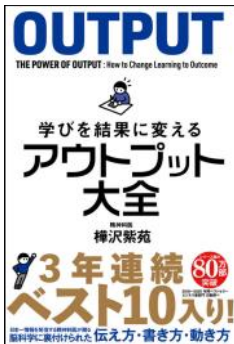
井上 新八さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第20回目は、井上新八さんのブックデザインをご紹介します。

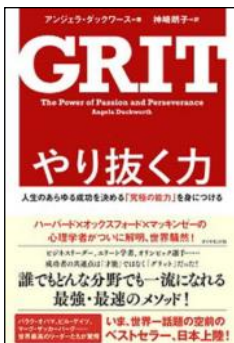
今回は、井上新八さんのブックデザインをご紹介します。これまでに井上さんがブックデザインを手掛けた本の多くがベストセラーとなっています。



まずご紹介するのは『学びを結果に変えるアウトプット大全』（榎沢紫苑著／サンクチュアリ出版／2018年／002.7||Ka 11）と『学び効率を最大化するインプット大全』（榎沢紫苑著／サンクチュアリ出版／2019年／002.7||Ka 11）です。



光沢のある箔押しのある文字“OUTPUT”と“INPUT”が学ぶ意欲を高めてくれそうなデザインです。



『やり抜く力 人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』（アンジェラ・ダックワース著／神崎朗子訳／ダイヤモンド社／2016年／159||D 93）は、表紙の上半分に広く、光沢のある赤色の箔押しがされています。原タイトルである“GRIT”の文字が印象的なデザインになっています。



カバー写真：Rebecca Nelson
／Getty イメージズ

『スタンフォード式最高の睡眠』（西野精治著／サンマーク出版／2017年／498.36||N 85）は、眠る子どもの写真とタイトルなど文字のバランスがよく、穏やかですっきりとした印象を受けます。

『人類にとって「推し」とは何なのか、イケメン俳優オタクの僕

が本気出して考えてみた』（横川良明著／サンマーク出版／2021年／772.1||Y 74）には、フリー素材サイト・いらすとやのイラストが使われていて、親しみや共感性が上がるデザインになっています。



装画：いらすとや



手描き文字：島野真希

最後に、『ぼくモグラキツネ馬』（チャーリー・マッケジー著／川村元気訳／飛鳥新社／2021年／726.6||Ma 21）をご紹介します。原著の手描き文字の印象を大切に、日本語ならではの魅力が伝わってきて、じっくり本と向き合いたくなるようなデザインとなっています。

今回は井上新八さんのブックデザインをご紹介します。本の持つメッセージが伝わってくるようなブックデザインでした。

次回もお楽しみに。



ちよこちよこ日記 #30 「手紙」

昨日、郵便受けをのぞくと、愛知県に住む友達から手紙が届いていました。封筒には、水色の花の切手が貼られていて、さわやかな気持ちになりました。手紙には、夢を叶えるために一歩踏み出したという報告が書いてありました。友達の頑張っている姿には、いつも励まされます。私も急いで知らせたいことがあったので、昨夜、返事を書いて、今朝、ポストへ出してきました。

友達とはSNSでも連絡を取り合っていますが、なかなか直接会うことが難しい今、手紙の中でおはなしすることが増えました。相手のことを考えながら手紙を書いて、ポストに出す。手紙が届いているかどうか、郵便受けをのぞく。そんな時間がとても楽しいです。

手紙の本を読んでもみませんか？『手紙手帖』（木村衣有子 著／祥伝社／2005年／816.6||Ki 39）は、手紙の基本的な書き方や、素敵な便箋やカードが紹介されていて、読むと手紙を書きたくなる一冊です。きっと手紙が楽しくなると思います。

こんな本読んでみて No.90

2021年8月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>